

ル・コルビュジェ「カップ・マルタンの休暇小屋」

— 壁画制作と室内塗装を通してのモデュロールと色彩についての考察 —

八代研究室

00912031 加藤 遥

1. はじめに

本研究は、ル・コルビュジェ「カップ・マルタンの休暇小屋」原寸レプリカの西面壁画の制作及び天井・床・壁の塗装を通し、小屋の室内空間とモデュロールの関係及び色彩について考察することを目的とする。

2. 制作概要

2-1. 西面壁画

休暇小屋は既存レストランの横に増築されたものである。そこで本制作では、実物には存在しない西面壁にモデュロールの図を描くこととした。壁画部分を 226×366 cmの黄金比にするため、原画のプロポーションより横幅を縮小してある(図 1)。塗装のプロセスを(図 2.1-4)に示した。

2-2. 室内塗装(天井、床、壁の一部)

室内塗装のプロセスは(図 2.1-2)に示した。塗料の配合は以下のようにした。

塗料：硬化剤：希釈剤=10：1：1

これを基準とするが、塗装を容易に行うために季節や天候等に合わせて希釈剤の量を調節した。塗装はシーラー1回、塗料2回塗りを基本とした。

3. 考察

3-1. 室内空間とモデュロールの関係

モデュロール(modulor)とは、人体寸法(module)と黄金比(Nombre d'Or)から作られた寸法である。基準となる身長 183 cmと、その臍の高さ 113 cmの比が黄金比になることを前提とした。この 183 cmと手を挙げた高さ 226 cmまでをそれぞれフィボナッチ数列で展開し、赤・青の2系列の寸法がつけられた(図 3)。

コルビュジェは内部空間の構成にモデュロールを使用した(図 3.6)。平面構成では、部屋を細分化する際の四角形の数値(226×140 cm, 86×86 cm)と窓の寸法にモデュロールが使われていた(図 7.1)。室内空間の高さとモデュロールの関係を(図 6)に示した。モデュロールの高さを薄いグレー

一、家具と重なる部分を濃いグレーで示した。この図から、モデュロール寸法に合わせて作られた家具はスツール(H=43)とコート掛け(H=113, 140, 183)だけであることが分かった。天井最高高も 280 cmとモデュロール寸法ではない。このことから、室内空間の高さを構成する際、モデュロールを厳密には使っていなかったことがうかがえる。

3-2. 色彩について

使用した塗料の色は、スイスの壁紙会社 Salubra によって作成された色見本¹⁾の中から選択した。使用する全 6 色を色見本の中の Salubra II より選定し、塗料用標準色²⁾から最も近い色を探した。選定した Salubra II の番号、塗料用標準色の番号、更にそれをマンセル値に置き換えた番号を(図 7.3)に示す。白と黒以外の赤・青・黄・緑の4色はル・コルビュジェの建築的ポリクロミーを構成する基本色である。また、マンセル値に置き換えたことでそれぞれの色が補色関係にあることが分かった。「赤/緑」、「青/黄」、「白/黒」これらの補色同士を隣り合う天井、重なり合う壁とカーテン、向い合う天井と床に当てている。これは補色の関係にある色を並べると、色相の違いが強調され、より鮮やかに見える補色対比を意識したと考えられる。

【謝辞】

本制作をするに当たり、町田清之講師、エスケー化研株式会社 池田忠彦氏にお忙しい中ご指導いただきました。心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) Willy Boesiger, Hans Girsberger 『Le Corbusier 1910-65』 pp.291-293, Birkhauser,1999
- 2) Le Corbusier, Arthur Ruegg 『Le Corbusier Polychromie Architecturale:Color Keyboards from 1931-1959』 Birkhauser, 2006
- 3) (社)日本塗料工業会 『2011年 F 版 塗料用標準色(ポケット版)』
- 4) 鈴木基紘,千代章一郎 「ル・コルビュジェの著作における色彩理論の変容」 pp.325-326, 日本建築学会学術講演梗概集(東海),2003年9月

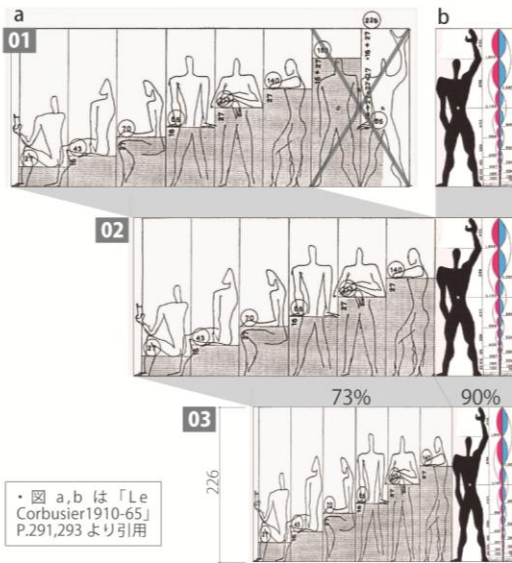


図1 壁画図案の決定プロセス



図2 塗装のプロセス

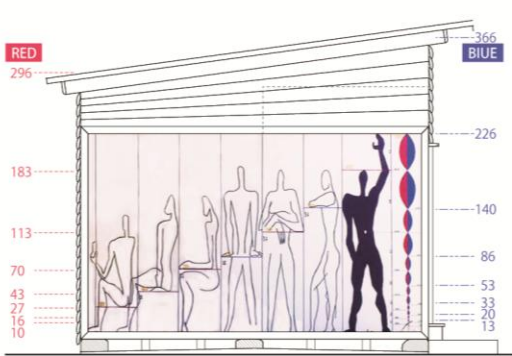


図3 壁画のモジュール寸法



図4 壁画完成写真



図5 室内塗装前後

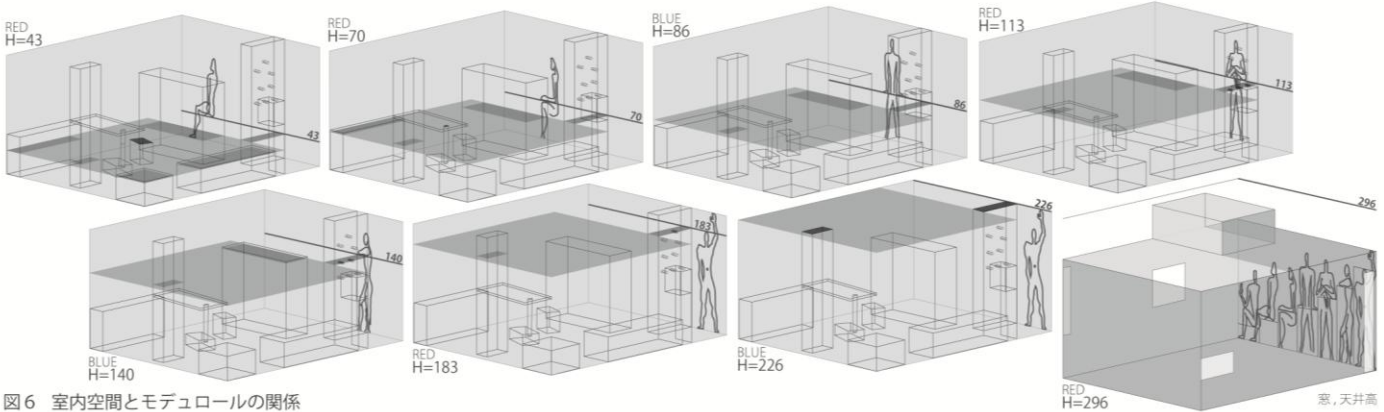


図6 室内空間とモジュールの関係

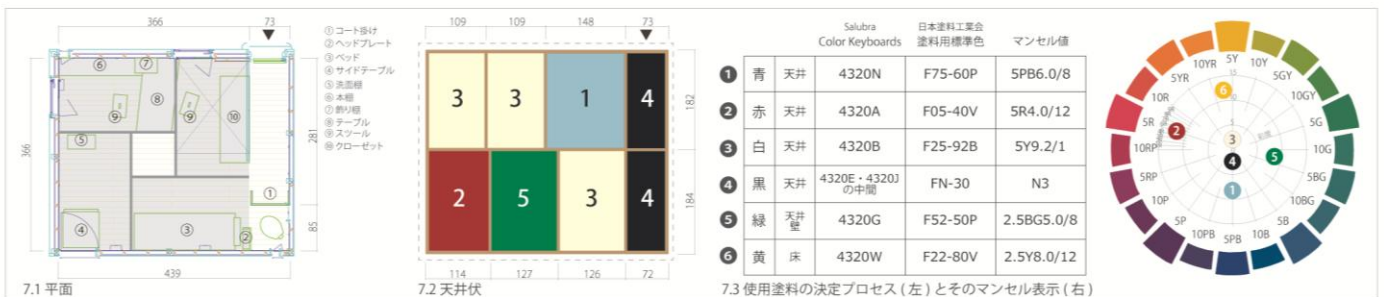


図7 天井の色彩